

府立難波支援学校



テーマ: 児童生徒の主体性を大切にし、わかる、できる、たのしいが実感できる授業づくり
 ~ キャリア教育の視点を通して ~

概要

児童生徒の主体性を大切にし、わかる、できる、たのしいが実感できる授業づくり

令和元年度、小学部4年の音楽、中学部2年の自立活動、高等部1年の美術の授業を対象に、授業づくり支援を行いました。子どもたちが主体的に学びを実現できるような学習活動を、評価の計画と関連づけながら単元計画の中にどのように位置づけていくか、また、子どもたちが社会に出ても学び続ける力を育む必要があり、それぞれの学びの過程において考えられる子ども一人ひとりの課題に対して、どのように指導・支援を行っていくかなどについて検討を行い、それぞれの教科において授業改善を図りました。最後に、授業事例を通して見えた授業改善のポイントを整理し、校内で全体共有を図りました。

実施

スケジュール

Research

8月22日(木)

管理職、研究部、授業者、担当指導主事で、今後の進め方について打ち合わせ

Vision

9月3日(火)

全体会

テーマ: 「児童生徒の主体性を大切にし、わかる、できる、たのしいが実感できる授業づくり ~ キャリア教育の視点を通して ~」

Plan

6月上旬~

学習指導案の作成・検討

Do

<美術>

10月4日(金)

事前授業・授業後の協議

10月11日(金)

研究授業(美術)

10月25日(金)

研究協議(美術)

<音楽・自立活動>

1月17日(金)

事前授業・授業後の協議

1月24日(金)

研究授業(音楽、自立活動)・研究協議(音楽)

1月27日(月)

研究協議(自立活動)

Check & Act

1月下旬

アンケート集約

全体会

9月3日(火) 「児童生徒の主体性を大切に、わかる、できる、たのしいが実感できる授業づくり ～ キャリア教育の視点を通して～」

① 支援教育推進室指導主事より

・なぜ「キャリア教育の視点」を通して授業を考えるのかということと、将来、児童生徒が社会に出てからも学び続ける力を育む必要があり、学校のめざす児童生徒像でもある「豊かな将来を切り拓くことができる児童生徒」を育てるにはどのような授業をすればよいのかの留意事項とその具体例を示しました。(資料は抜粋)

② 授業者より「研究授業に向けて」

・年間指導計画をもとに、現在取り組んでいる単元計画を取り上げ、具体的に目標や内容、主な教材、取組み状況について説明しました。
 ・児童生徒が主体的に取り組むためにはどのような学習場面を設定していくか、その中でキャリアの視点がねらいに合っているかについて、自身の考えを発表し、指導案を検討しました。

研究授業

(1)

学年・教科： 高等部1年 「美術」
 単元名： 「はにわ・古墳時代の美術」

「ICT 機器を活用した指導・支援の工夫」

研究協議のポイント 習熟度別班編成により授業を展開し、ICT 機器を活用して学習グループの実態に合わせた指導ができていたか、また、粘土の感触や手でこねて変化していく形の面白さを体験することで、生徒が主体的に取り組んでいたか協議しました。

研究授業

(2)

学年・教科： 小学部4年 「音楽」
 単元名： 「音で遊ぼう」

「児童生徒の主体性を大切に授業づくり」

研究協議のポイント 実態の様々な子どもたちが日々の生活の安定と落ち着いて過ごせる環境づくりを心がけ、教材・教具の工夫を通して楽しいと思える授業になっているか。また、成功体験を積み重ね、やってみたいと思える授業になっていたか等、具体的な指導・支援の工夫や今後に向けた改善点について、協議しました。

研究授業

(3)

学年・教科： 中学部2年 「自立活動」
 単元名： 「トランプで色合わせ・風船バレー」

「生徒自身が主体的に参加できるような授業づくり」

研究協議のポイント 「協調性を養い、ルールを守って行動する。課題の内容を理解して活動する。」という目標で、指導・支援を行っている。また、実態把握を的確に行い、安心できる環境を設定し、成功体験を積んでいくことで自尊感情を向上させ、生徒自身が主体的に参加できているか等、協議しました。

成果

<児童生徒の主体性を大切に、わかる、できる、たのしいが実感できる授業づくりに当たって>

- ・ 全学部の教職員が研究授業を参観できたので、他学部・他クラスの教職員にも児童生徒の学習の様子を知っていただいたことは全校的に意識の向上につながりました。
- ・ 日頃の自分の授業の構成や単元目標、手立てなどをよりしっかりと考える良いきっかけになり、児童生徒の主体性を大切にする授業について学部を越えて考えることにより教職員の授業力向上につながりました。

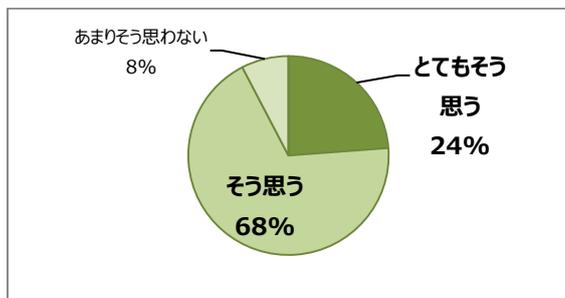
<キャリア教育の視点にあたって>

- ・ 学校のめざす児童生徒像でもある「豊かな将来を切り拓くことができる児童生徒」を育てるために、児童生徒の主体性を大切にした授業を行いました。また、児童生徒が「わかる」「できる」「たのしい」を実感でき、学び続ける姿勢を育むことが、社会に出てからも必要な力の土台を育むことにつながっていることを全学部・全教職員で意識することができました。

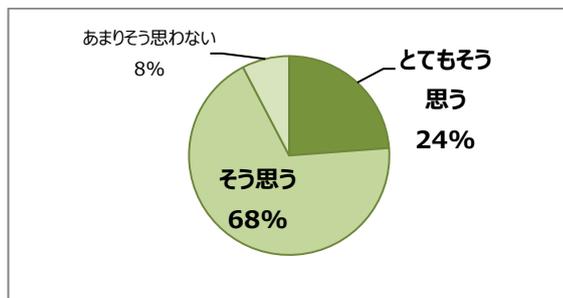
アンケート

結果

① 学校のニーズにできていた



② 今回の成果を継続的に生かしていく



(感想より)

- ・ パッケージ研修支援を活用したことで、授業について互いに語り合える(語り合いやすい)校内の風土ができつつあると思います。今年度に限らず、これを良いきっかけとし、授業力向上に向けての研究体制づくりをめざしていきたいです。
- ・ 校内研究体制づくり、指導計画や評価の在り方、授業力の向上、教職員の意識改革等様々なところで改めて考えるきっかけになったと感じています。
- ・ 学年だけでなく、学部全体、または学部を越えて考える場、意見を言い合える場が持てることで、自分自身の授業づくりや授業改善につながるようになりました。今回パッケージ研修支援に取り組んだことで、少数かもしれないが、授業改善につながった教職員がいて、これが今後も浸透していけばよいと思いました。
- ・ 授業を「見る」「見られる」ことは大切だと思います。校内で、「気軽に授業を参観できる週間」等を作ってみるのもよいと思いました。